

広葉樹の造林について

問 広葉樹を植えたいのですが，短伐期で収穫できるものにはどんなものがあるでしょうか。
(中川町 Nさん)

答 広葉樹を山地に造林することは，一般的にいつてまだおすすめできません。その理由は，用材を生産するには，伐期までにかかなりの年数かかること， 植え付け後の管理について，まだ十分に明らかでないものが多いこと，そして 天然生の二次林が多く存在しているので，それらを保育した方が有効であると考えられること，などです。

今のところ，比較的短伐期で生産が可能であり，有望と考えられるのは，次のようなものです。

：彫刻用材・床柱などの生産のための，イヌエンジュの造林。

：しいたけ原木を生産するための，ミズナラの造林。

これらは，まだ実践例は少ないのですが，各地で行われはじめています。いずれも，伐期 20 年～30 年で，ある程度の収穫を見込むことができるでしょう。

彫刻材としてのイヌエンジュは，それほど大量の需要が見込めるものではありませんから，屋敷林や里山に小規模に植付けるのに適しています。2 年生苗木を，1 ha 当り 3,000～5,000 本植えます。植付けの際には，下刈り時の誤伐をさけるために，色付きのテープでしるしをつけておくとよいでしょう。年 2 回ていどの下刈りが，3 年間は必要です。根に根粒菌がつき，チッ素の固定を行うために，草丈をぬけ出してから生長が旺盛で，20 年で直径 10cm になります。

床柱材として育てるためには，通直にする必要があります。樹高 2 m くらいに達したのちには，下の方の枝を剪定ばさみを用いて切りとってやらねばなりません。木の姿がひよろりとしすぎて安定を欠く場合には，副木をたてて，まっすぐに固定してやる必要があります。この芽かきの作業は，枝下の通直な部分が 2 m 以上の長さになるまでつづけます（植栽後 3 年目から 5 年目までくらいと予想されます）。彫刻材用に造林したものの中から，形質の良いものを選んで，床住用に残していてもよいでしょう。

しいたけ原木としてのミズナラは，今後も需要の伸びが見込まれます。利用可能なのは，直径 6cm から 12cm ていどのものまでですから，かなり早い時期から収穫が可能です。やはり 2 年生苗木を植付けます。この際，ひげ根が少なく，いも根状の不良苗木は活着が悪いので注意を要します。植付け本数は，1ha あたり 5,000 本（1.4m 間隔）ぐらいが適当でしょう。

平均胸高直径が 10cm くらいに達した時期に皆伐するのが良いでしょう。この際，直径が大きく，通直で，枝下高の高いものがあれば，これらは保残して，優良大径材生産を目指してもよいでしょう。残す木は，1ha あたり 100 本ていどで十分で，他の木は伐採します。伐株からは萌芽幹が発生しますから，再び，ミズナラ林として育てていくことができます。

(造林科 菊沢喜八郎)